



東日本大震災 ボランティア報告

東日本大震災の復興支援のために、
たくさんの県立大生がボランティアと
して被災地を訪れています。その中
の1つのプロジェクトを紹介します。



「竹の会所」プロジェクト ～復興の方舟～

宮城県気仙沼市本吉町田の沢地区

「未来を語り合いたくても、語り合う場所がない」という被災地の声から、県立大の学生
が中心となり、津波で集会所を失った地域
にみんなが集まれる“場”を作ろうと、「竹の
会所プロジェクト」が発足しました。海のそば
に立てられた「竹の会所」が、海と共に生活し
てきた地域の方々に、また海と共に未来を築
いていけるきっかけになれば…と、学生たち
が熱い思いを胸に、全国から集まった有志と
地域の方々と力をあわせて作り上げました。



竹の会所-たけともブログ:
<http://yaplog.jp/taketomo2011/>

後援会は学生が積極的にボラ
ンティア活動に参加できるよう、
交通費・ボランティア保険料助
成で支援しています。



はっさか34号に寄せて

3月に退任される後援会役員各位からの
メッセージを掲載いたします。

このたび後援会の任期が無事に終えるこ
とができました。これも会員みなさまのご
理解・ご協力のおかげであると、心から感謝
申し上げます。後援会での仕事や多くの人
との出会いは、私自身の人生にとって非常
に価値ある大きな財産となりました。と
同時に大学に対する愛着もいっそう大き
くなりました。後援会は常に「学生に必要
な支援は何か」を考えてきました。これか
らもすべての学生に声援を送り続けます。
日本でいちばん温かみのある人が育つ大
学として滋賀県立大学が発展していくこ
とを願ってやみません。

中川 修

県立大学がまだ建設中の頃、娘を連れて
よく大学の広場に遊びに来ました。まさか、
その娘がお世話になるとは。合格したとき
は本当に嬉しかったことを覚えています。4
年間、会員の皆様、事務局の皆様には大
変お世話になりました。湖風祭、理事会等
で大学を訪れると自分も学生に戻ったよ
うな若々しい気持ちになり嬉しかったです。
今後も学生達のためによりしく願います。
滋賀県立大学が、誰からも愛され、信頼
される、オンリーワンの大学となるよう
がんばってください。いつまでも応援して
います。

北村 隆文

年数回の会議に参加し、皆様のより良
い大学にしようという熱意を感じる事が
でき、また、足を運ぶ事によって大学が
身近に感じられた四年間でした。何のお
役にも立てませんでしたが、貴重な経験
をさせて頂き、ありがとうございます。

北村 智子



滋賀県立大学 後援会ブログ

携帯電話からも
ご覧いただけます。

滋賀県立大学後援会news 検索

<http://hassaka.shiga-saku.net/>

「はっさか」バックナンバーは、以下の
URLよりご覧いただけます。

<http://www.usp-koenkai.jp/news/>

後援会会報 はっさか 第34号

2012年2月 発行

編集・発行

滋賀県立大学後援会事務局(学生・就職支援グループ内)
TEL 0749-28-8219 FAX 0749-28-8298

滋賀県彦根市八坂町2500
Eメール info@usp-koenkai.jp

制作 (株)バー・デザインハウス <http://bird-design.jp/>
表紙イラスト minori harchi683@gmail.com

次号(vol.35)は、
2012年8月発行予定です。

滋賀県立大学後援会会報

はっさか vol.34

春と家族は
いつもあたたかい

- 1面 家族へ贈る言葉
春の学校行事
- 2面 学内施設ご紹介
「環境共生システム研究センター」
- 3面 就職支援情報
内定者からのアドバイス
- 4面 はっさか34号に寄せて
東日本大震災ボランティア報告

家族へ贈る言葉

家族へ、いつも見守ってくれてあり
がとう。4年間の大学生活は、経済的
には勿論だけどそれ以外にも、家族
の協力無しには成し得ませんでした。
電話やメールがくる度、私のことを心
配してくれているのが感じられて嬉
しかったです。院に進ませてくれたこ
とも感謝しています。いつも遊んでば
かりだと思われている気がするけれど、
勉強もそこそこやっている(と思う)よ!
あと2年間この大学で頑張りますので、
変わらず見守って
いてください。

工学部
機械システム工学科
4回生 武田 南実



大学に入学してから早いもので、も
う4年間も終わりのよい卒業。大学
に行かせてもらえたおかげで、学科
に部活に…と色々なことを体験させ
てもらいました。おかげで大切な友
達も、大切な先輩も後輩も出来て、こ
の大学で良かったと思いながら卒業
することができます。これからも色々
なことで世話をしてもらおうと思うけ
れど、今までよりは自分の力でやってい
けるように頑張りたいと思っています!

人間文化学部人間関係学科
4回生 北垣 太郎



「みつめる」

今号の
表紙写真は!

撮影: 福益 大介さん

(環境科学部環境・建築デザイン学科4回生)

夕暮れのキャンパスで、なにかを意味ありげに
みつめていたカモが気になって撮ってみました。

2011年度学位記授与式

日時: 2012年3月20日(火・祝)

午前10時開式

場所: 滋賀県立大学交流センター

2012年度入学式

日時: 2012年4月5日(木)

午前10時開式

場所: ひこね市文化プラザ

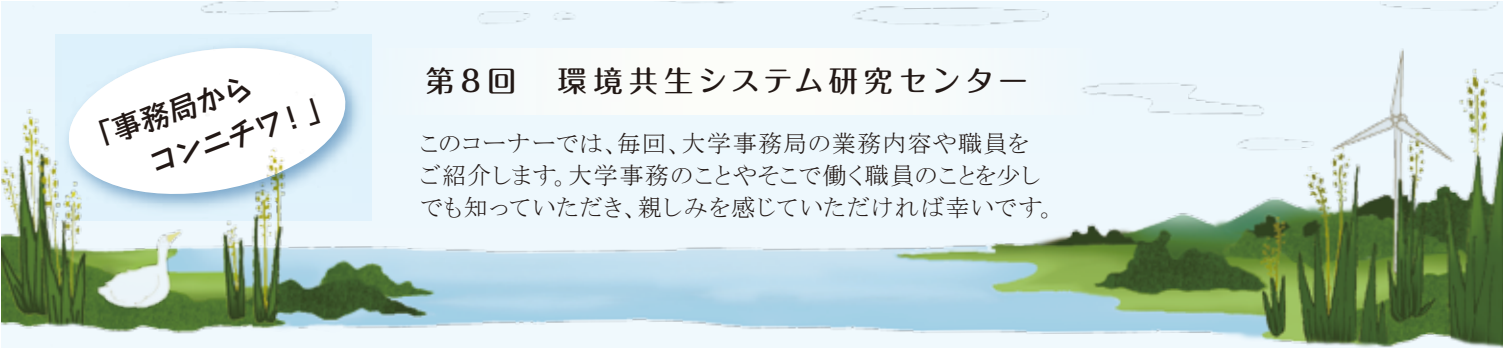
2012年度後援会総会

日時: 2011年4月5日(木)

午前11時15分開始

場所: ひこね市文化プラザ

※入学式後、同会場にて開催予定です。



「事務局から
コンニチワ！」

第8回 環境共生システム研究センター

このコーナーでは、毎回、大学事務局の業務内容や職員をご紹介します。大学事務のことやそこで働く職員のことを少しでも知っていただき、親しみを感じていただければ幸いです。



滋賀県では、2030年に温室効果ガス排出量の50%削減(1990年比)と、健全な生態系や安全・安心な水環境の確立を目標とした政策ビジョンを掲げています。当センターは、滋賀県ほか地域の様々な団体、国内外の専門家と連携し、環境共生型社会を実現するためには、どのような技術革新が必要かを探求するために、2008年6月に設立されました。

本センターでは、①産業エコロジー②エネルギー技術 ③環境機能再生④環境共生都市の4つの領域の研究部門をもち、国際学術研究支援、関連教育活動を実施しています。

環境共生システム研究センターは学の融合と、学と地域・産業との融合により、持続可能な社会への転換に必要な現実知を発展させるために研究をしています。専任スタッフはあまりいませんが、各学部の先生方の力を借りながら進めています。



仁連 孝昭
センター長

就職支援グループから保護者の皆様へー先輩も応援していますー

3回生の就職活動も本格的に始まりました。”就活”はこれからの一生を決めるといってもよい重要な活動です。以前の「売り手市場」から「買い手市場」へと学生を取り巻く環境は激変しました。しかし、だからこそ自己分析や企業研究にしっかりと取り組み、あせらず且つ時機を逸せず、着実に自分の夢の実現を目指してがんばってもらいたいと思います。

就活は苦労もありますがその分、学生は大きく成長します。自分自身を徹底的に見つめ直し、新たな自己発見、自己変革をする時でもあります。

大学では3回生と大学院博士前期課程1回生の学生に、年間を通した就

学部・学科	環境科学部 生物資源管理学科	 祝 内 定
氏 名	中村 衣里	
内 定 先	株式会社 ユニバーサル園芸社	
『後輩たちへのメッセージ』		

就職活動を迎えた皆さん、将来に対して大きな不安を感じていらっしゃるかもしれませんね。しかし、焦って背伸びする必要はありません。皆さんがこれまで過ごした20年以上の歳月は一様に同じものではなく、各々にしかない経験を通して今のあなたという「個性」に繋がりました。勉強、部活、趣味、何でもかまいません。就職活動で大切なのは、自分がこれまで一番打ち込んだこと、一生懸命話せることを相手に伝える姿勢です。それがあなたという人間の「味」を理解してもらう一番の方法となるでしょう。

私の場合、内定先の企業を知ったきっかけは、活動先で出会った方との何気ない会話でした。就職活動では貴重な出会いが沢山あります。企業の前線で働く大先輩達からなら尚更学ぶことも多いでしょう。「内定」という結果を出すことも勿論大切ですが、これから社会のなかで活躍していくための最後の成長期間として、就職活動を存分に活かしてほしいと思います。

学部・学科	人間文化学部 生活栄養学科	 祝 内 定
氏 名	陸田 めぐみ	
内 定 先	滋賀県教育委員会 (家庭科)	
『後輩に向けて』		

私は昔から教師になりたいと思っていたので、就職活動は教員採用試験と企業を一つ受けただけでした。企業説明会等にも行っていません。また、教員採用一次試験の勉強は3週間集中して専門教養と教職教養を勉強しただけでした。そんな私が教員採用試験に合格できたのは、様々な方の支えと背水の陣で挑む姿勢があったからだと思います。

私は就職活動をするにあたり、家族と共に自己分析や情報収集を行いました。また、教務グループでは面接練習をしていただいて本番の様子などを教えていただきました。このように自分一人ではなく他の方に就職活動を見てもらうことで、就職活動を多角的に見つめることができました。そして、教員採用試験以外の就職活動をしないうことによって、一つのことに集中できる環境と将来像を具体的に意識できる環境を作り上げました。

就職活動は自分との闘いですが、自分自身と闘う時に一人きりで戦う必要はありません。誰かに支えてもらって下さい。私も皆さんを応援しています。

職セミナーを15回実施しておりますし、1月には全国から優良企業を招き、学内企業研究会を実施しています。また、2回生対象のキャリア教育「キャリアデザイン論」を今年度新規授業として開講し、早くからしっかりと職業観、就労観を持ち、自己の将来ビジョンを考えながら明確な目的意識を持って充実した学生生活を送るよう指導しております。

保護者の皆様におかれましても、お子さんの就職活動について日頃から積極的に話し合っていたいただき、側面から応援していただきますようよろしくお願いします。

学部・学科	工学部 電子システム工学科	 祝 内 定
氏 名	麻田 稔	
内 定 先	タカタ株式会社	
『後輩へのメッセージ』		

就職活動を乗り切るために大切なことは、いろいろな人と会話をすることです。筆記試験の対策は一人で勉強することでも乗り越えることができますが、面接などの対策は一人で行うと気付かないことが多いです。会話をすることは時間の無駄であると感じる人もいますが、そうではありません。何気ない日常の会話から気付くことは多くあります。私も就職活動中に友達と面接練習、教授や事務の方と話したことで、自分では気付くことのできなかった長所や短所に気付くことができ、悩みも相談することで解消されました。皆さんも就職活動を始めようと思い立った時、是非自分の進路について相談してみることをお勧めします。皆さんの周りには応援してくれる人が数多く存在し、必ず協力してくれます。

最後に就職活動では後悔しないことが重要です。自分の全力で就職活動を行ってください。そうすれば後悔しない納得のいく結果がでてくるはずです。皆さんの健闘を祈っています。

学部・学科	人間看護学部 人間看護学科	 祝 内 定
氏 名	岡田 美菜子	
内 定 先	国立大学法人 滋賀医科大学医学部附属病院	
『就職活動を通して』		

私は就職活動を通して自分をみつめることの大切さを学びました。どのような環境で働き、学び、どんな人間になりたいのか考え、自分の働く姿をイメージできたのがこの病院でした。実習の前までは、やりたいことや目指す看護師像など分かりませんでした。しかし、様々な病院・病棟に行き、現場を肌で感じることで興味のある分野や、やりたいことが徐々に見えてきました。後輩のみなさんも、実習という貴重な機会にぜひもう一度自分をみつめ、目指す姿について考えてみてください。そして、様々な就職説明会や病院が主催するインターンシップに参加してみてください。実際に病院に行ってみるといことはとても大切だと思います。

就職活動中は迷ったり悩んだりすると思います。しかし、同じような悩みを持った友達もいます。自分の思いを人に話すことだけでも、考えを整理することができるので、どんどん人と話しましょう。行動あるのみ!!応援しています!!

国際学術共同研究の支援

県立大学と提携するアメリカシガン州、レイクスベリオル大学から研究者を招聘し、本学研究者等との共同セミナーを実施しています。2011年度は、レクリエーションを専門とするサリーチャイルド教授を招聘しました。



環境共生システム
研究センターの
活動のようす



環境に関する教育活動

8月に、ベトナム、ダナン大学にて、アジアの環境問題をテーマとしたセミナーを企画・実施しました。県立大学生9名を含む、4カ国23人の学生が、アジアの環境問題を勉強し、その解決方法を議論しました。

We work, here!
私たちが働いています。



左／楊海鯤さん
(県立大学博士課程院生)

湯川 創太郎(写真中央)

自称「研究者の難」。経済学が専門で、センターでは、滋賀県の経済、産業と環境の関わりを研究しています。ベトナムの海外セミナーにも参加させていただき、現地の学生と論戦を展開しました(笑)。

小沢晴司(写真右)

琵琶湖の景観等を学んでいます。1日の僅かな時間、夕暮か未明の琵琶湖畔に佇むことをお勧めします。そんな時間を持てるのは県立大に学ぶ学生の特権です。湖辺の景観は様々な感応を皆さんに与えてくれるでしょう。



明るく和やかな職場